

I 珊瑚礁内海域における藻場造成の研究(要約)

(アジモ・ホンダワラ)

伊野波盛仁、当真 武、上原孝喜

本研究は昭和50年度指定調査総合助成事業報告(沖水試資料No.15)で別途に報告したので要約のみを記するにとどめる。

要 約

- ① 沖縄島沿岸海域における藻場調査を行い、藻場の構成主要種と分布、成熟期および季節的消長について明らかにした。
- ② 調査結果から藻場造成の対象種としてツクシモク(Sp No.1)、キシウモク(SP 2)およびカラクサモク(Sp 3)が選定されそれらの採苗期を確認した。
- ③ 採苗試験において藻の移送による採苗は藻場に採苗基質を投入する方法よりも簡便で実用化の可能性はある。しかし本試験においてはどちらの場合も採苗成績は良好でなかった。
- ④ その原因として食害や漂砂等の影響が推察され、また建築用コンクリートブロックの基質は採苗基質として適当でないことが指摘された。
- ⑤ 成藻を移送し実験漁場に設置した際も食害による藻の損耗があり、また食害種はこの場合主として魚類であると推定された。また食害防止の一方法として三枚底刺網はサンゴ性礫の多い漁場では使用できないことが明らかになった。